

報 告

0～1歳の乳児期を想定した母親のタッチングにおける
複数の養育場面間の相違：回顧的方法を用いて麻生 典子¹⁾, 岩立志津夫²⁾

〔論文要旨〕

本研究の目的は、乳児に対する母親のタッチングにおける7つの養育場面毎の違いと一般的特徴について検討することである。1～2歳児を持つ母親29名を対象に質問紙調査と面接調査を行った。主な結果は以下である。①母親のタッチングは養育場面毎に異なる。②遊び場面は、他6場面に比べ子どもに激しい身体刺激を与えるタッチングが多い。③泣き場面と寝かしつけ場面は、他5場面に比べ子どもの情動を鎮静させるリズムミクなタッチングが多い。④泣き場面は、他5場面に比べ抱っこを基本とした連続的タッチングと部分的タッチングが多い。以上より、乳児に対する母親のタッチングには、養育場面毎にさまざまな特徴があることが見出された。

Key words : タッチング, 養育場面, 母子関係, 乳児

I. はじめに

近年、核家族化や少子化が進み、児童虐待や育児不安といった養育上の問題が懸念されている。「健やか親子21」の中でも、子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減が課題目標にあげられ、一部の自治体ではタッチケアを行政サービスに組み込んでいる。

タッチケアは乳児マッサージ法であり、これまでに体重増加や免疫機能の促進、愛着形成などさまざまな効果が報告されている^{1)~6)}。しかしながら、これまでのタッチケアは、病児へのディベロップメンタルケアとして行われることが多く、健常児への効果や基礎的研究について十分に検討されていない³⁾。

タッチケアをマッサージとする考えがある一方で、タッチケアの原点を、抱いて、語りかけ

て、おっぱいを飲ませる「べったり保育」とする指摘もある⁴⁾。これらを考えると、タッチケアは身体接触を介した自然な育児のあり方とも言える。つまり、育児とタッチケアは連続線上にあり、親子間の自然な身体接触のありようへの注目はすべての子どもの健全な育ちにとって有益と考える。

身体接触は、双方向性や情動性等の性質があり、独自のコミュニケーションチャンネルとして重要な役割をもつと言われる^{7)~11)}。身体接触が子どもにどのような効果があるのか、その役割や機能に関する報告はいくつかある^{7)~16)}。例えば、Tronick¹⁰⁾は、抱っこは子どもへの安全性で、突っつきは脅かしを与えるなど身体接触のメッセージ性を述べた。また、Hertenstein¹¹⁾は、触コミュニケーションモデルを提案した。そのモデルによると、乳児は与えられた身体接

Differences in Mothers' Touching Their Infants Who were 0~1 year Old Among
the Seven Scenes of Nurturing : Using the Retrospective Method
Noriko ASO, Shizuo IWATATE

[1743]

採用 05. 8. 1

受付 06. 3. 8

1) 日本女子大学大学院人間社会研究科心理学専攻 (臨床心理士・助産師)

2) 日本女子大学人間社会学部心理学科 (臨床発達心理士・教育職)

別刷請求先: 麻生典子 日本女子大学大学院人間社会研究科心理学専攻

〒214-8565 神奈川県川崎市多摩区西生田1-1-1

Tel : 044-952-6890 Fax : 044-952-6909

触とその時の文脈を手がかりに意味を見出すという。しかしながら、これらの身体接触の双方向性や文脈に基づく影響を裏付けるデータは十分に報告されていない¹¹⁾。この理由として、従来では身体接触のバリエーションの検討やスケールの開発がなされておらず、行動測定全体の比較が難しかったことがあげられる¹¹⁾。親子間の身体接触のあり方やその役割を解明するためには、身体接触の行動測定全体が場面によってどのような特徴があるのかに注目すべきと考える。

本研究は、乳児をもつ母親が育児をしている場面に注目し、そこで展開される日常場面での自然な身体接触をタッチングとする。本研究は、タッチング質問紙を作成し、母親のタッチングのバリエーションが養育場面毎にどのように異なるのか、その一般的特徴を見出すため質問紙調査をした。さらに質問紙で捉えられないタッチングの具体的内容や流れに関する叙述的データを得るため面接調査を行った。

本研究の目的は、乳児に対する母親のタッチングのバリエーションが7つの養育場面毎に違いがあるかどうか、その場面毎の一般的特徴を明らかにすることである。

II. 研究方法

①調査対象者

某大学主催の子育て支援グループの参加者で1～2歳児をもつ母親29名である。

②調査期間

2001年1月～2005年10月。

③タッチング質問紙の作成

a. 予備調査(1)

タッチングカテゴリーの選定のため、17組の親子に対し1年間に3回(生後2か月時、生後7か月時、生後1年時)家庭で観察を行った。観察時間は、どの家庭も各時期約90分以上行われ、すべてビデオテープに録画された。録画データから親から子へのタッチング行動を抽出した。先行研究^{10)17)～19)}を参考にしてボトムアップ^{注1)}的にまとめ、13のタッチングカテゴリーを設定した(表1)。

b. 予備調査(2)

養育場面を設定するため、乳幼児を持つ9名の母親を対象に自由記述による調査を行った。記述があった7場面(授乳・食事・おむつ交換・入浴・遊び・子どもの泣き・寝かしつけ)を養育場面とした。

c. タッチング質問紙

予備調査(1)と(2)によりタッチング質問紙を作成した。

④調査方法

a. 質問紙調査

子育て支援グループの参加者に対し調査協力の依頼をし、質問紙を自宅に郵送し回答後返送してもらった。質問紙の始めに、タッチングカテゴリーの操作的定義^{注2)}と具体例の説明を行った(表1)。その後、生後1年間の間、13のタッチングカテゴリーを7つの養育場面毎にどのくらい行ったのか想起してもらい、3件法で回答してもらった。最後に普段行ったタッチングを自由に記述してもらった。

b. 面接調査

自由記述データを質的に深めるため、29名の対象者に面接調査を行った。面接は、質問紙の返送後対象者の都合のよい日時に設定された。場所は某大学内のプレイルームで、面接時間は20～30分であった。面接は、まず十分なラポールをとったうえで、「お子さまと〇〇(養育場面名)している状況では、どのようなタッチングをなさいますか?」と、7つの場面毎に問いかけ自由に話してもらった。言語的な説明だけでタッチングの具体的内容を把握しにくい場合は、新生児の等身大の人形(Happy Bear "MY Own Baby", Lee Middleton Original Dolls, Inc 製)を使って、実演しながら話してもらった。面接内容は対象者の承諾のうえテープに録音した。

注1) 興味ある対象について、行動観察や面接など情報収集し、そこから一般的結論や理論の説明を作っていくこと。

注2) 具体的な実験手続きや操作のことばで概念を定義すること。

表1 タッチングカテゴリー

タッチングカテゴリー	操作的定義	具体例
部分的タッチングカテゴリー さわる	親の身体の一部（特に手指や手のひらなど）が，子どもの身体の一部に接触する。接触している間，その部分は動かない。	おでこ・頬を触る。
なでる	親の身体の一部（特に手指や手のひらなど）が，子どもの身体の一部に軽く触れ，触れた部分が優しく動く。5秒間に1～5回程度の割合で，その速さは「さする」よりもゆっくりである。	頭・眉をなでる。
さする	親の身体の一部（特に手指や手のひらなど）が，子どもの身体の一部に触れて，触れた部分が速く動く。5秒間に10～15回程度の割合で，その速さは，「なでる」よりも速い。	背中・手足をさする。
持つ	親の身体の一部（特に手指や手のひらなど）で，子どもの身体の一部を持つ。親は持つことにより，子どもの持たれた部分の重さを負担する。持った部分は動かない。	手足・頭・首を持つ。
振る	親の身体の一部（特に手指や手のひらなど）で，子どもの身体の一部を持ち，円弧上の経路で小刻みに速くゆり動かす。1秒間に1～3回程度の割合で動く。	手足を振る（シャンシャンシャン，バイバーイ）。
叩く	親の身体の一部（特に手指や手のひらなど）で，子どもの身体の一部に触り，続けざまにトントンと打つ。その速さは規則的であり，5秒間に1～5回程度の割合である。	背中・お尻を叩く。
突つつく	親の身体の一部（特に手指など）で，子ども身体の一部を触り，突く。その触られた皮膚の表面積は小さいが，軽い圧が皮膚に加わる。	頬・お腹を突つつく。
くすぐる	親の身体の一部（特に手指や手のひら，足，口など）で，子どもの身体の一部（脇腹や，首，足裏など）を刺激し，むずむずと笑いたいような気持ちを起こさせる。	脇・首をくすぐる（こちょこちょ）。
抱っこカテゴリー 抱っこする （抱っこ）	親の身体の一部（手足，腕など）で，子どもを包みこむように，あるいは支えるようにして，親の身体に接して保つ。その親子間の接触は連続的である。	横抱き。縦抱き。
抱き上げる （抱き上げ）	抱っこされていない子どもを，親がこれから抱こうとする。抱っこを開始する行為。	泣いている子どもを抱き上げる。
抱き変える （抱き変え）	親が子どもを抱っこして，その抱き方を変える。抱き方を変えてから1秒間はもとに戻らない。	縦抱きから横抱きへ。
静かに揺らす （揺らす（静））	親が子どもを抱っこして，上下左右前後にリズムに静かに揺らす。左右の場合は横に90度以内である。	ゆりかごの様に揺らす。
荒々しく揺らす （揺らす（荒））	親が子どもを抱っこして，上下左右前後に荒々しく揺さぶる。左右の場合は，横に90度以上である。	高い高い。飛行機ブーン。わっしょい。

注（ ）内はカテゴリーの略名である。

⑤分析方法

a. 質問紙調査

各タッチングカテゴリーは，3件法に従い1～3点（1：ほとんどしない，2：普通，3：ほ

とんどする）に得点化し，合計得点の平均を分析に使用した（表2）。統計処理には，SPSS ver11.0を使用した。

b. 面接調査

面接データはすべて逐語録にした。同じ内容のタッチングを1エピソードとし、各養育場面毎にまとめた。

⑥ タッチング質問紙の信頼性と妥当性

a. 信頼性

タッチング質問紙の13のカテゴリーについて、Cronbachの α 係数を算出した。その結果、 α は0.829で十分な内的整合性が得られた。

b. 妥当性

先行研究との比較と心理学に従事する教員との協議により、カテゴリーと操作的定義の決定を行い内容的妥当性^{注3)}を高めた。

Ⅲ. 結 果

1. 対象者の属性

母親の平均年齢は33.3歳(範囲26~40)で、母親の職業は、無職26名、常勤1名、非常勤2名であった。対象児の平均月齢は25.5か月(範囲12か月~35か月)で、性別は男児11名と女児18名であった。

2. タッチングカテゴリーと養育場面の効果

13のタッチングカテゴリーに対し7つの養育場面毎に平均と標準偏差を算出した(表2)。独立変数を2要因(タッチングカテゴリー:13水準, 養育場面:7水準)にし、従属変数を各養育場面の各タッチングカテゴリーの評定値にして、2要因分散分析(反復測定)を行った。その結果、タッチングカテゴリー要因と養育場面要因の有意な主効果が認められた(タッチングカテゴリー $F(13,28)=47.24$, $p<.01$ 養育場面 $F(6,28)=74.87$, $p<.01$)。また、タッチングカテゴリー要因と養育場面要因の有意な交互作用も認められた(タッチングカテゴリー $\times$ 養育場面 $F(72,28)=17.89$, $p<.01$)。水準数の増加は、明快さに欠けるため、補完的に表2に平均値と下位検定の結果を示した。下位検定の読み方については、表2の注3)で説明した。

3. 養育場面要因の下位検定

13のタッチングカテゴリーに対し養育場面の

7水準間の差を検討するため、Tukey HSD法による多重比較を行った。以下よりタッチングカテゴリーは表1で使用した略名とする。

3-1 養育場面の全体的比較

表2をもとに、養育場面要因の3水準間以上で有意差があったカテゴリーを中心に、養育場面の全体的比較を行う。

3-1-① 遊び場面

遊び場面は、「振る」と「突つつく」、「くすぐる」と「揺らす(荒)」が他の全場面より有意に多く、「抱き上げ」は他5場面より有意に多かった(表2)。「持つ」と「叩く」は他4場面より有意に多く、「揺らす(静)」は3場面より有意に多かった。これより、遊び場面は、他場面より子どもの身体を激しく刺激するタッチングが多い。

3-1-② 泣き場面

泣き場面は、抱っこカテゴリーの「抱き上げ」と「揺らす(静)」、「揺らす(荒)」が他5場面より有意に多く、「抱き変え」が他4場面より有意に多かった(表2)。また、部分的タッチングの「叩く」と「さする」が他5場面より有意に多く、「なでる」が他4場面より有意に多かった。以上より、泣き場面は、抱っこを基本とする連続的タッチングと部分的タッチングが併用される。

3-1-③ 寝かしつけ場面

寝かしつけ場面は、「叩く」と「揺らす(静)」が他5場面より有意に多かった。また、「振る」が他3場面より有意に少なかった。これより、寝かしつけ場面は、「振る」など子どもへの刺激は少なく、リズムカルで静かな振動を与える

注3) 先行研究^{10)17)~19)}における行動測定をまとめると、Stroking (なでる), Rhythmic touch (リズムミックスなタッチ), Holding (抱っこ), Tickling (くすぐり), Kissing (キスをする), Poke/pinch (突つつく), Hugging (抱きしめる), Patting (軽く叩く), Rubbing (さする), Rocking (揺らす), Touching (さわる)であった。本研究では、このうち、Kissing (キスをする)は行動観察で出現しなかったため採用しなかった。また、Hugging (抱きしめる)とHolding (抱っこ)は、「抱っこする」という同じカテゴリーにまとめた(表1)。

表2 タッチングカテゴリーの記述統計と下位検定の結果

N=29

タッチング カテゴリー	養育場面 ^{注1}														養育場面間の下位検定の 結果 ^{注2}
	授乳 (F)		食事 (M)		おむつ 交換 (D)		入浴 (B)		遊び (P)		泣き (C)		寝かし つけ (S)		
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	
さわる	2.48	0.63	1.79	0.56	2.45	0.63	2.52	0.63	2.66	0.48	2.83	0.38	2.76	0.51	C・S・P・B・F・D>M ^{注3}
なでる	2.31	0.71	1.48	0.51	2.14	0.64	2.28	0.65	2.34	0.48	2.72	0.45	2.66	0.61	C>F・B・D・M, C・S・P・F・B・D>M
さする	1.93	0.80	1.17	0.38	2.17	0.71	1.93	0.70	1.83	0.71	2.72	0.59	2.31	0.85	C>D・B・F・P・M, C・S・D・B・F・P>M
持つ	2.10	0.77	1.62	0.62	2.72	0.53	2.38	0.62	2.72	0.53	2.07	0.75	1.93	0.92	P>C・F・S・M, D・F・B>C・S・M, P・D・B・F・C・S>M
振る	1.17	0.47	1.00	0.00	1.83	0.80	1.79	0.77	2.72	0.59	1.38	0.62	1.17	0.54	P>D・B・C・F・S・M, D>C・F・S・M, P・B・D>F・S・M
叩く	1.59	0.78	1.07	0.37	1.55	0.69	1.41	0.63	2.10	0.72	2.62	0.62	2.62	0.68	C・S>P・F・D・B・M, C・S・P>F・D・B・M, C・S・P・F・D>M
突つつく	1.66	0.86	1.38	0.68	1.28	0.59	1.55	0.83	2.45	0.78	1.38	0.49	1.17	0.54	P>F・B・C・M・D・S
くすぐる	1.03	0.19	1.00	0.00	1.45	0.78	1.69	0.81	2.79	0.49	1.24	0.58	1.07	0.37	P>B・D・C・S・F・M, B>C・S・F・M, P・B・D>F・M
抱っこ	2.97	0.19	1.93	0.70	1.41	0.63	2.66	0.48	2.76	0.44	3.00	0.00	2.76	0.51	C・F・P・S・B・M>D, C・F・P・S・B>M
抱き上げる	2.03	0.87	1.48	0.63	1.79	0.86	2.00	0.85	2.66	0.61	2.97	0.19	1.72	0.84	C・P>F・B・D・S・M ^{注3} , C・P・F>M
抱き変える	2.72	0.59	1.17	0.38	1.31	0.54	2.03	0.91	2.52	0.69	2.69	0.60	2.14	0.88	F・C>S・B・D・M, F・C・P・S・B>D・M
静かに揺らす	1.66	0.81	1.03	0.19	1.10	0.31	1.38	0.68	2.03	0.87	2.79	0.49	2.79	0.41	S・C>P・F・B・D・M, S・C・P>B, P>B・D・M, S・C・P・F>D・M
荒々しく揺らす	1.00	0.00	1.00	0.00	1.03	0.19	1.24	0.58	2.52	0.69	1.59	0.73	1.10	0.41	P>C・B・S・D・F・M, C>B・S・D・F・M

注1. ()内のアルファベットは各養育場面の略式記号である。F(Breast-Feeding)は授乳場面, M(Meal)は食事場面, D(Diaper)はおむつ交換場面, B(Bath)は入浴場面, P(Play)は遊び場面, C(Cry)は子どもの泣き場面, S(Sleep)は寝かしつけ場面とした。

注2. 下位検定の結果は、有意水準が5%以下のものを示した。

注3. 各養育場面は、略式記号で表記した。下位検定の結果は有意差の大小関係をく>で示し、各養育場面を・で区切った。例えば、C・S・P・B・F・D>Mは、Mが、C・S・P・B・F・Dの各場面間において有意に少ないことを示す。C・P>F・B・D・S・Mは、CはF・B・D・S・Mの各場面間で有意に多く、Pも同様にF・B・D・S・Mの各場面間で有意に多いことを示す。

タッチングが多い。

3-1-④ おむつ交換場面

おむつ交換場面は「振る」が他4場面より有意に多く、「持つ」が他3場面より有意に多かった。少なかったカテゴリーとして、「抱っこ」が他6場面より有意に少なく、「抱き変え」が他5場面より有意に少なかった。また「揺らす(静)」が他4場面より有意に少なく、「叩く」が他3場面よりも有意に少なかった。以上より、

おむつ交換場面は抱っこカテゴリーは少ないが、「振る」など子どもの手足を刺激するタッチングは多い。

3-1-⑤ 入浴場面

入浴場面は、「くすぐる」が他4場面より有意に多く、「振る」は他3場面より有意に多かった。また、「叩く」と「揺らす(静)」は他3場面より有意に少なかった(表2)。これより、入浴場面は「くすぐる」や「振る」など激しい

身体刺激を与えるタッチングが多い。

3-1-⑥ 授乳場面

授乳場面は、「抱き変え」が他4場面より有意に多く、「振る」と「くすぐる」が他3場面より有意に少なかった(表2)。以上より、授乳場面は「振る」や「くすぐる」など子どもを強く刺激するタッチングは少ない。

3-1-⑦ 食事場面

食事場面は、4カテゴリー(さわる・なでる・さする・持つ)が他6場面より少なく、3カテゴリー(叩く・抱っこ・抱き変え)が他5場面より少なかった。また、「揺らす(静)」が他4場面より少なく、「振る」と「くすぐる」、「抱き上げ」が3場面より有意に少なかった。これより、食事場面は他場面に比べタッチングが少ない。

3-2 各養育場面のタッチングの特徴

各養育場面毎に具体的にどのようなタッチングの特徴があるか、下位検定の結果と面接デー

タをもとに検討していく。全対象者の各養育場面毎の総エピソード数は、遊び45、泣き36、寝かしつけ32、おむつ交換32、入浴22、授乳21、食事16であった(表3)。下位検定の結果は有意差があったものを示した。また、養育場面は4つに分けて図示した(図1~4)。

3-2-① 遊び・泣き・寝かしつけ場面

図1をみると、遊び場面はカテゴリー全体がまんべんなく行われている。特に目立った特徴は、「振る」と「くすぐる」、「突つつく」が、泣きと寝かしつけ場面よりも遊び場面で有意に多かったことである(図1, 2)。一方、図2をみると、泣き場面と寝かしつけ場面のタッチングの全体パターンは非常に類似している。異なった点は、「抱き変え」や「抱き上げ」、「揺らす(荒)」が、泣き場面の方が寝かしつけ場面よりも有意に多かったことである。表3より、遊び場面は「左右に揺すったり、上下に持ち上げたり」や「自転車こぎのように動かしたり上

表3 タッチングエピソード

養育場面	総数	代表的エピソード
遊び(P)	45	飛行機や馬を身体で表現するように、子どもを抱っこしたり背中に乗せたりして、左右に揺すったり、上下に持ち上げたりする。 子どもを仰向けに寝かせて、足首を持つ。横に広げたり、自転車こぎのように動かしたり、上下に振ったりする。
泣き(C)	36	「泣いちゃったのね。よしよし。」と言いながら、子どもを抱っこして背中をトントンと叩いてあげる。 とにかく泣いたらすぐ抱っこして、自分の心臓の近くに子どもの顔を当てて、ぎゅっと抱きしめて、落ち着かせていた。
寝かしつけ(S)	32	子どもに添い寝をした状態で、おでこやお腹をリズムカルに軽く叩く。 子どもを抱っこしたまま、子守歌を歌いながら抱いて歩く。抱いて揺らしながら、背中をトントンと叩く。
おむつ交換(D)	32	子どもを仰向けに寝かせて、おむつをはずした状態で、足や足の付け根、お腹をさする。 おむつ交換をした後、子どもを仰向けに寝かしたまま、足をさすったり、「伸び伸び〜。」と歌いながら足を伸ばす。
入浴(B)	22	子どもが湯船を怖がったり、洗髪を嫌がるのでしっかりと抱っこする。 抱っこして湯船の中で子どもを浮かせながら、子どもが自分で手足をバシャバシャできるようにしたり、親が子どもの手を持ち、水をすくってバシャバシャした。
授乳(F)	21	母乳をあげているときは、できるだけ静かにして授乳に集中していた。子どもの手指を握ったり、親の指を子どもに握らせたりした。 母乳をあげていると、すぐ疲れてしまい飲まなくなってしまうので、子どもが寝ないように常に足の裏をなでるようにしていた。
食事(M)	16	(食事から)子どもの気が散らないように、特別なタッチングはしない。椅子に座らせて食べさせる。あまり食べる気がないときに、子どもの頬を突つつくくらい。 あまりタッチングはしない。椅子に座らせて食べさせる。食事を与えて食べてくれた時には、ほめて頭をなでたり、おいしいねと頬をポンとする程度。

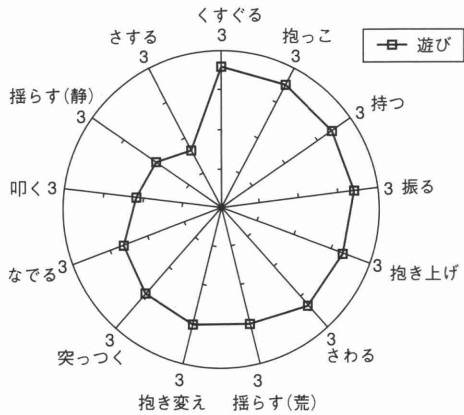


図1 遊び場面におけるタッチング

注 各軸の目盛りは、各タッチングカテゴリーの評価値（1～3点）の平均値

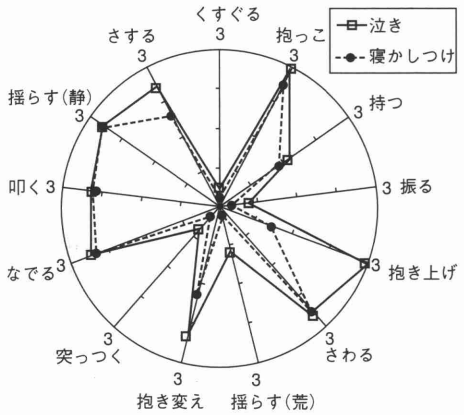


図2 泣き場面と寝かしつけ場面におけるタッチング

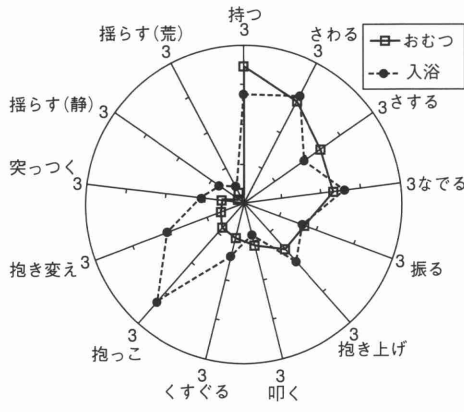


図3 おむつ交換場面と入浴場面におけるタッチング

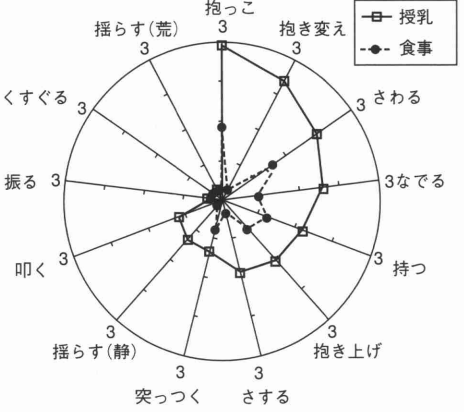


図4 授乳場面と食事場面におけるタッチング

下に振ったり」など、子どもに激しい身体刺激を与えるエピソードがみられた。一方、泣き場面と寝かしつけ場面は「抱っこして背中を叩いてあげる」や「子守歌を歌いながら背中をトントンと叩く」という静かでリズムカルな振動を与えるエピソードが共通した特徴として認められた。

3-2-② おむつ交換・入浴場面

図3のように、入浴場面とおむつ交換場面は一部のタッチングパターンが類似していた。異なったのは、「抱っこ」と「抱き変え」が入浴場面の方がおむつ交換場面よりも、有意に多かった点である。表3より、おむつ交換場面と入浴場面は「足をさすったり、足を伸ばす」や「湯船で手足をバシャバシャする」など子どもの手

足に強めの身体刺激を与えるエピソードが共通してみられた。一方、入浴場面は「嫌がるのでしっかりと抱っこする」のように子どもを抱くが、おむつ交換は子どもを寝かせる点が相違する特徴であった。

3-2-③ 授乳・食事場面

図4のように食事場面は多くのタッチングカテゴリーが非常に少なかった。授乳場面と食事場面の比較では8カテゴリー（例えば、抱っこ・抱き変え・さわる）が、授乳場面より食事場面の方が有意に少なかった。表3より、食事場面は「気が散らないようにタッチングはしない」など積極的にタッチングをしないエピソードが認められた。授乳場面では「寝ないように常に足の裏をなでたり」と母乳摂取を促すためのタ

タッチングを行っていた。つまり、両場面とも食事や授乳を妨害しないようタッチングを行う点が共通する特徴であった。相違する特徴は、授乳場面は子どもを抱くが、食事場面は子どもを椅子に座らせる点であった。

IV. 考 察

IV-1 各養育場面のタッチングの特徴

本研究の目的は、タッチング質問紙を用いて、乳児に対する母親のタッチングについて7つの養育場面毎の違いとその一般的特徴を検討することであった。その結果、母親のタッチングの7つの養育場面毎の違いが見出された。タッチングの全体的行動バリエーションに注目し、各養育場面毎に比較を行ったことで、それぞれの場面でのタッチングの目立った特徴を見出すことができたと思われる。各場面のタッチングの特徴について先行研究の知見を踏まえ考察していく。

遊び場面は、他場面より「振る」と「突つつく」、「揺らす(荒)」と「くすぐる」など、子どもの身体全体に荒っぽい刺激を与えるタッチングが多かった。乳児の笑いタッチングの有無との関連は報告されているが¹⁴⁾¹⁵⁾、本研究により、遊びと関係するタッチングの具体的なバリエーションが明らかになった。

泣き場面と寝かしつけ場面は、他場面より「揺らす(静)」や「叩く」が多かった。前庭系一固有感覚刺激の泣きを減少させる効果は報告されており¹²⁾¹³⁾、本研究でもこれら知見を支持する結果が得られた。両場面は、子どもの泣きや情動を鎮静化させる必要があるため、一定の割合で静かな振動を与えるタッチングが、なだめ機能として用いられると思われる。また、泣き場面は寝かしつけ場面と比べ、「抱き上げ」と「抱き変え」、「さする」と「なでる」が多く両場面間の相違も明らかになった。寝かしつけ場面は、起こさないように子どもの体位を一定にするが、泣き場面は、子どもを抱きかかえながら落ち着かせなければならない。このような養育場面の特色が、タッチングの違いを生じさせていると思われる。

おむつ交換場面と入浴場面は他場面より「振る」が多かった。両場面は養育行為が、皮膚接

触と密接に関係する点が共通している。「振る」のような激しい身体刺激が多いのは、養育行為が容易に遊びに発展しやすいからではないだろうか。しかしながら、「抱っこ」や「抱き変え」が入浴場面の方がおむつ交換場面よりも多く、養育場面の特色によるタッチングの違いが認められていた。

食事場面は、全場面中最もタッチングが少なかった。授乳場面も他場面より多いタッチングはなく、特に「振る」や「くすぐる」が他場面より少なかった。授乳時は非授乳場面に比べて、身体的に密着する行動が多く、乳児が眠りやすくなると報告されている¹⁶⁾。本研究の授乳場面では、抱っこなどの身体に密着する行動が他の場面に比べ多いという結果は得られなかったが、「振る」や「くすぐる」など身体を激しく動かす行動が少なく、一部において同様の知見を得ることができた。

IV-2 触コミュニケーションモデルとの比較

母親のタッチングは各養育場面ごとに異なり、母親は子どもの置かれている状況や欲求を考慮し、タッチングを使い分けていた。本研究結果は、Hertensteinの知見と矛盾するものでなく、親子間のタッチコミュニケーションの双方向的なやり取りの存在可能性を示すことができた。しかしながら、親子間のタッチコミュニケーションは、これら双方向的なやり取りが幾重にも連続的に展開する。つまり、乳児の状況に基づき与えられた母親のタッチングは、その後の乳児の反応を再評価し多様に変容していく可能性がある。本研究は、子どもの状況に基づく母親のタッチングという一つのプロセスを示したに過ぎないが、子どもの状況や欲求に基づいたタッチコミュニケーションの双方向的性質や重要な役割について提案できたと思われる。

IV-3 臨床場面への応用可能性

本研究により、各養育場面における母親のタッチングの一般的特徴を見出すことができた。子どもの欲求や状況に応じた望ましいタッチングのあり方を確立し、それらを育児指導場面などに導入していくことで、子どもの健全な発達への効果が大きいと期待できる。また、タッチン

グの一般的特徴を基盤とし、個別性を考慮したタッチングのあり方を検討していけば、発達上問題を抱えた子どもに対しても十分に応用可能である。さらに、親子のタッチングのありようは、親子の関係性や母親の状態を示す重要な指標となるだろう。医療機関や健診の場において親子間のタッチングを観察することにより、虐待や母親の養育行動上の問題の早期発見に役立つと思われる。

以上より、乳児に対する母親のタッチングは、養育場面毎にさまざまな特徴があることがわかった。また、母親のタッチングが、乳児の状況や欲求に基づいて機能的に用いられる可能性も示唆された。今後は、タッチング質問紙を、信頼性と妥当性を兼ね備えたタッチングスケールへと発展させていきたい。また、本研究で得られた知見は少数事例の報告であり、今後は大規模集団での実施が必要と思われる。

V. ま と め

本研究は、乳児に対する母親のタッチングにおける7つの養育場面毎の違いとその一般的特徴について検討した。1～2歳児を持つ母親29名を対象に質問紙調査と面接調査を行った。主な結果は以下である。①母親のタッチングは養育場面毎に異なる。②遊び場面は、他6場面に比べ子どもに激しい身体刺激を与えるタッチングが多い。③泣き場面と寝かしつけ場面は、他5場面に比べ子どもの情動を鎮静させるリズムミックスなタッチングが多い。④泣き場面は、他5場面に比べ抱っこを基本とした連続的タッチングと部分的タッチングが多い。以上より、乳児に対する母親のタッチングには、養育場面毎にさまざまな特徴があることが見出された。

謝 辞

研究にご協力下さったお母様方とお子様に心より厚く御礼申し上げます。研究の一部は、第52回日本小児保健学会で発表した。

文 献

- 1) Field T. Touch. Massachusetts : A Bradford Book The MIT Press, 2001 : 75-153.
- 2) Field T. Infant Massage Therapy. Field T, ed.

Touch in Early Development. New Jersey : Lawrence Erlbaum Associates, 1995 : 105-114.

- 3) 前川喜平. わが国のタッチケア研究会の発足について. チャイルドヘルス 1999 ; 2(6) : 6-7.
- 4) 橋本武夫. タッチケアをすすめていくうえでの理解—ディベロップメンタルケアとの関係を含めて. チャイルドヘルス 1999 ; 2(6) : 16-19.
- 5) 吉永陽一郎. タッチケアの実際とその評価. チャイルドヘルス 1999 ; 2(6) : 8-9.
- 6) 斉藤和恵, 吉川ゆき子, 飯野 孝一他. 3か月児への6か月間のタッチケア施行の効果—健康児の発達と母親の育児感情の変化—. 小児保健研究 2002 ; 2 : 271-279.
- 7) 根ヶ山光一. 発達行動学の視座 : 〈個〉の自立発達の人間科学的探究. 東京 : 金子書房 2002 .
- 8) 麻生典子. 乳児を抱っこする様式のパターンと夫婦関係—育児をめぐる夫婦の役割分担に注目して. 家族心理学研究 2004 ; 18 : 99-110.
- 9) 土谷みち子. 親子関係の調整からみた早期の育児および発達支援—「抱っこ」のぎこちなさに焦点をあてて—. 小児保健研究 2004 ; 6 : 674-684.
- 10) Tronick EZ. Touch in Mother-Infant Interaction. Field T, Ed. Touch in Early Development. New Jersey : Laurence Erlbaum, 1995 : 53-63.
- 11) Hertenstein MJ. Touch : Its Communicative Functions in Infancy. Human Development 2002 ; 45 : 70-94.
- 12) Korner AF, Thoman, EB. The Relative Efficacy of Contact and Vestibular-Proprioceptive Stimulation in Soothing Neonates. Child Development 1972 ; 43 : 443-453.
- 13) Byrne JM, Horowitz ED. Rocking as a Soothing Intervention : The Influence of Direction and Type of Movement. Infant Behavior and Development 1981 ; 4 : 207-218.
- 14) Stack DM, Lepage DE. Infants' Sensitivity to Manipulations of Maternal Touch During Face-to-Face Interactions. Social Development 1996 ; 5 : 41-55.
- 15) Stack DM, Arnold SL. Changes in Mothers' Touch and Hand Gestures Influence Infant Behavior During Face-to-Face Interchanges. Infant Behavior and Development 1998 ; 21 : 451-468.

- 16) Holditch-Davis D, Miles MS, Belyea M. Feeding and Nonfeeding Interactions of Mothers and Prematures. *Western Journal of Nursing Research* 2000 ; 22 : 320-334.
- 17) Pela'ez-Nogueras M, Field T, Gewirtz JL. The Effects of Systematic Stroking Versus Tickling and Poking on Infant Behavior. *Journal of Applied Developmental Psychology* 1997 ; 18 : 169-178.
- 18) Landau R. Affect and Attachment : Kissing, Hugging, and Patting as Attachment Behaviors. *Infant Mental Health Journal* 1989 ; 10 : 59-69.
- 19) Carlsson SG, Fagerberg H, Horneman G, et al. Effects of Amount of Contact Between Mother and Child on the Mother's Nursing Behavior. *Developmental Psychobiology* 1977 ; 11 : 143-150.

[Summary]

The purpose of this study is to examine the differences and the general feature in mothers' touching their infants among seven scenes of nurturing (nursing, feeding, changing diapers, bathing, playing,

crying, and putting-infants-sleep.) We asked the twenty-nine mothers having 1 ~ 2-years-olds to fill out questionnaire and to have an interview concerning their touching behaviors. The main results were as follows : 1. The mothers' touching behaviors vary from the nurturing scenes to scenes. 2. Mothers' touching intensifying their infants' physical stimulation occurs more frequently in the play scene than any other scenes. 3. In the putting-infants-sleep scene and crying scene, rhythmic touching that stabilizes the infants' emotion occurs more frequently than other five scenes. 4. In the crying scene, both intermittent or consecutively-holding touching behaviors occur more often than other five scenes. In concluding, the mother's touch provided to infant have different characteristics based on every seven nurturing scenes.

[Key words]

touching, scenes of nurturing, mother-infant relationship, infant